

# スペイン語における「省略」の用法の体系について<sup>1</sup>

## - 等位接続を中心として -

Sistematización del uso de la elipsis en español,  
especialmente en la coordinación copulativa

三木 一郎

Ichiro MIKI

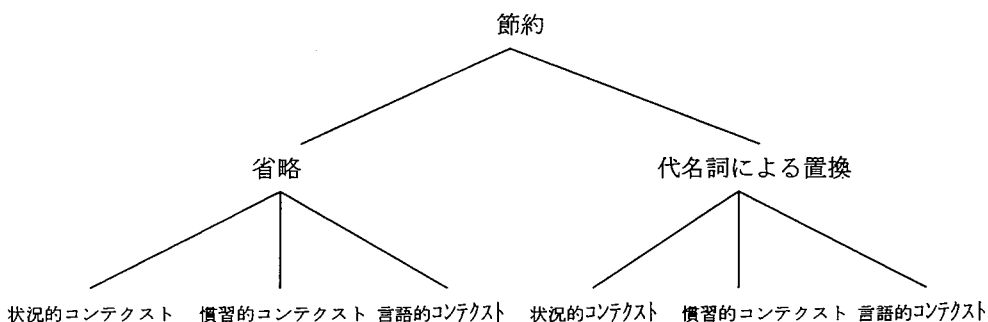
### 0. はじめに

「省略」は同じ語句の繰り返しを避けるために、意味がかわることのないように注意をはらいながら、文の構成要素の一部を省き文を簡潔にするという、どの言語でも起こりうる現象であり、節約原則の当然の結果ともいえる。しかしこの用法は構造に問題点が少ないと思われるためか、スペイン文法ではさほど脚光を浴びる項目ではなかった。古くは *Minerva* に始まり、<sup>2</sup> *D.R.A.E.* の 1992 年度版に至るまでその定義もほとんど変化はなく、2001 年度版において漸く説明の例文に変化が見られたに過ぎない。<sup>3</sup> *G.R.A.E.* も 1771 年から 1931 年度版までほとんど重きを置いていない。<sup>4</sup> そして 1973 年の *Esbozo* では、動詞のない文を取り扱っているものの、1931 年度版まで存続した「省略」の項目がついに削除されている。<sup>5</sup>

スペイン語では「省略」は様々なケースで起こりうるが、本稿では「省略」の基本的な原因となる節約の原則と、「省略」の使用頻度の高い等位接続におけるケースを取り上げ、その体系化を試み、併せてこの用法の成立の可能性や問題点についてもふれてみたい。

### 1. 節約原則の体系

最初の分類として、「節約」を次の図のように「省略」と「代名詞による置き換え」に分けてみた。そしてさらに、その各々を状況的コンテキスト、慣習的コンテキスト、言語的コンテキストに分けた。それぞれを例文とともに検討してみたい。



1. 1. 省略

1. 1. 1. 状況的コンテキスト

次の例はある限定されたコミュニケーションの状況による「省略」である。

(1) ¡Toma!

(2) Una media, por favor.

(2a) Una media barra de pan, por favor.

(3) Una  $\Phi$  de berberechos, por favor.  $\Phi$  = ración, porción, ?? lata

(1)の文は直接目的語を指しながら発話する最もシンプルな形であり、(2)は店の状況から(2a)のような完全な文でなくても何を指すのかが推測できるケースである。(3)はMOD 1がberberechosであるため、省略されている要素は当然(2)のケースとは異なり、ración, porción などになるが、両例文の構造は次のように同一である。

Una + NUC<sub>1</sub>(N) elíptico + MOD<sub>1</sub>(de + N)

ただし、状況上の互換性は次のような場合は同質性が加味されるので、十分なものとは言えない。

(4) Una  $\Phi$  de cerveza  $\Phi$  = ? botella o caña

この文はコンテキストからは、省略されている要素が botella と caña と両方の可能性があるため、注文を受けた方は区別がつきにくい。しかし次のケースはどうであろうか。

(4a) Una  $\Phi$  de anís.  $\Phi$  = copa, ?? botella

通常は anís を botella で注文することは考えにくいので、省略された要素は copa であることはほぼ確定的となる。このようなコンテキストに慣れた聞き手が、省略された要素をたやすく理解するだろうという公算が、状況的コンテキストによる「省略」の構成と解釈を可能なものにする原因と言えるだろう。

次のケースは等位接続の中に見られるものであるが、後に取り上げる言語学的コンテキストの場合と異なり、第2連結部ではなく第1連結部に省略が起こるケースである。

(5) En la universidad las clases empiezan siempre a  $\Phi$  y cuarto y duran hasta en punto.

(5a) ¿A qué hora te marchas? Me voy a  $\Phi$  y cuarto.

(5)では言及されている時間が毎時であるという意味が、そして(5a)では今が何時台であるかがそれぞれわかっていなければ、これらの構文は当然意味をなさないことになる。

また次のように、状況的コンテキストと言語学的コンテキストの対立関係が板ばさみを誘発させる可能性も存在している。

(6) Tráigame una jarra de cerveza y una  $\Phi$  de berberechos.

第2連結部で省略されている要素  $\Phi$  は言語学的コンテキストからいえば、jarra になるのだが、berberechos を jarra で注文することは通常ないという状況的コンテキストから判断すると矛盾が生じる。したがって、これは ración など、省略されたものの要素と異なった再生が生じる例で、限られた特定の状況や業界用語で起こりうるケースである。

### 1. 1. 2. 慣習的コンテキスト

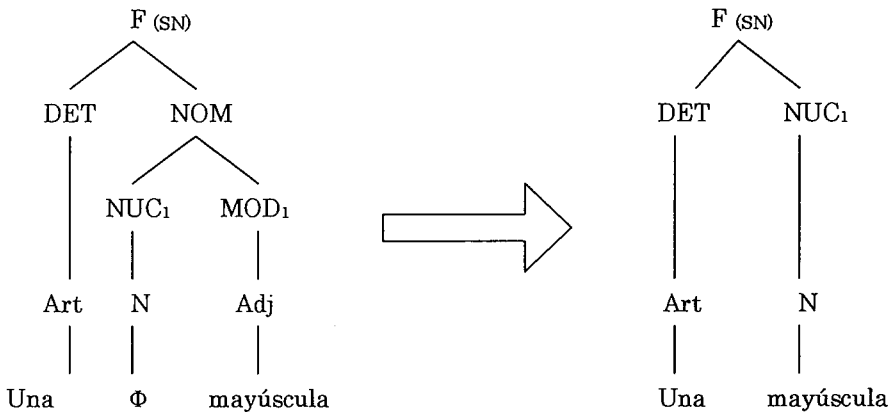
前述の状況的コンテキストが、特殊な場合のみならず、すべての話し手の意識の中で次のように、より一般化され慣習的に使われるケースがある。

(7) Una tortilla a la  $\Phi$  francesa.  $\Phi$  = manera

この語句の省略されている要素は manera であると推測できるが、そもそも省略されているというコンセンサスが薄れているケースである。次の例も同様である。

(8) la  $\Phi$  mayúscula / minúscula / inicial  $\Phi$  = letra

これも letra が省略されているが、語彙の進化が形態統語的な転換を引き起こしたもので、形容詞の名詞化とも言える。D.R.A.E. は形容詞のみとしているが、<sup>6</sup> María Moliner や Julio Casares はこの語を形容詞のみならず名詞としても取り扱っている。<sup>7</sup> この点を図に示すと次のようになる。



次のケースも省略された要素を具体的に再生することは事実上不可能である。

(9) Lo ha hecho *por las buenas*.

特に bueno という形容詞の女性形は、いわばこの種の省略に用いられることを運命付けられているような気がする。以下 Moliner の辞書の例をいくつか挙げる。<sup>8</sup>

- A la buena de Dios.
- Estar de buenas
- Por las buenas
- De buenas a primeras

### 1. 1. 3 言語的コンテキスト

次の例文のように等位接続において用いられることが多い。<sup>9</sup>

(10) Antonio canta bien y Pedro  $\Phi$  mal.  
           M<sub>1</sub>  M<sub>2</sub>

(11) El hijo de Antonio y el  $\Phi$  de Pedro acaban de salir.  
           M<sub>1</sub>  M<sub>2</sub>

第1連結部の要素が第2連結部で省略されるケースであり、繰り返しを回避し、省略された要素が明らかに目に見える形で再生できる点が前述の2つのコンテキストの場合と異なる。

### 1. 2. 代名詞による置換

#### 1. 2. 1. 状況的コンテキスト

代名詞を使うことによって目的物を手にしたり、指したりしながら意思伝達を図ったり、あるいはそれが何を指すのかが推測できるケースである。

(12) Deme *éste*, por favor.

(13) Yo no tendría valor para hacer *lo*.

#### 1. 2. 2. 慣習的コンテキスト

決まりきった言い回しで、代名詞が指すものを復元することが事実上不可能なケースである。圧倒的に代名詞は女性形が多いが(18)のように男性形の場合も存在する。<sup>10</sup>

(14) dar *la* con queso

(15) arreglárse *las*

(16) dárse *las* de ...

(17) componérse *las*

(18) pasar *lo* bien / mal / en grande

### 1. 3. 言語的コンテキスト

直近の状況の中で示されている語彙の構成単位の繰り返しを避けるために代名詞が使われるのが常であるが、それまでも省略すれば当然非文となる。

(19) Antonio enjabona al bebé y María *lo* seca.

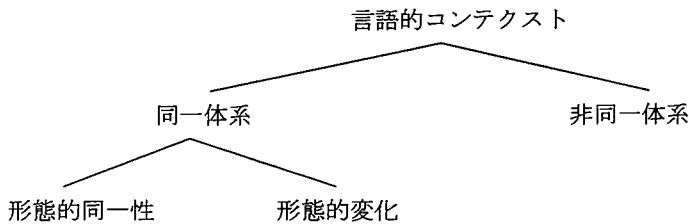
(19a) \*Antonio enjabona al bebé y María  $\Phi$  seca.

また、この現象は等位接続以外の独立した文でも起こりうる。

(20) ¿Dónde está el bolígrafo? · *Lo* he dejado en la cocina.

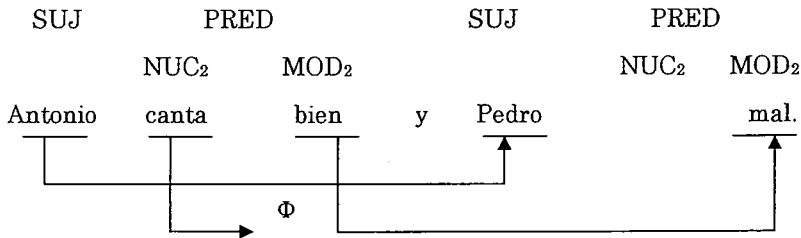
## 2. 言語的コンテキストにおける特徴

すでに2つのコンテキストにおける「節約」の基本的な体系を見てきたが、先に述べたとおり、ここで取り扱うものが真の意味で「省略」の名に値するコンテキストなので、さらに詳しく見ていきたい。「省略」が等位接続において頻繁にみられることは多くの文法学者によって提唱されているが、<sup>11</sup> それを図に表わし、引き続きその体系を見てみよう。



### 2. 1. 同一体系

次のように音声上も表示上も対になる要素が存在しないが構造上は同一である。



唯一の違いは形態的にも同一である場合と変化がある場合とがある点である。

(21) Antonio *tomó* una cuba libre y Pedro  $\Phi$  una tónica. (形態的同一性)  $\Phi$  = *tomó*

(22) Antonio *tomó* una cuba libre y yo  $\Phi$  una tónica. (形態的变化)  $\Phi$  = *tomé*

引き続きこの体系の問題点を考察してみよう。

#### 2. 1. 1. 機能上の不均衡による理解の範囲

次のように等位接続はされているが、等級レベルの平衡がくずれた場合でも「省略」は可能であるが、(23a)のようにその範囲が度を越えると非文となる。

(23) Antonio ha ido a Tenerife y me han dicho que Pedro  $\Phi$  a Gran Canaria.

$\Phi$  = ha ido

(23a) \* Antonio ha ido a Tenerife y me ha mandado una tarjeta postal en la que me escribe que Pedro  $\Phi$  a Gran Canaria. \*  $\Phi$  = ha ido

## 2. 1. 2. 「省略」の順序

(24a) は (24) の順序を逆にしたものであるが、この場合は省略された要素は (32) とは異なり隣接句を含んだ「省略」となる。

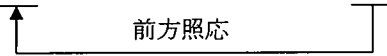
(24) El hijo de Antonio conoce al amigo del  $\Phi$  de Pedro.  $\Phi$  = hijo

(24a) El amigo del hijo de Pedro conoce al  $\Phi$  de Antonio. \*  $\Phi$  = hijo

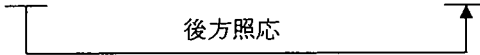
$\Phi$  = amigo del hijo

次に照応の問題を見てみよう。Bally は「省略」は両方向のいずれの照応においても可能であるとしているが、<sup>12</sup> 等位接続に限って言うならば、常に前方照応の場合においてのみであり、後方照応であれば非文となる。

(25) Antonio está en la universidad y Pedro  $\Phi$  en casa de un amigo.



(25a) \* Pedro  $\Phi$  en casa de un amigo y Antonio está en la universidad.



次のような「前後」、「内外」、「大小」、の接辞の場合を見てみたい。

(26) documentos pre y postconciliares (Franchini, 1987)

この句ははたして次のような「省略」とみなすことが可能であろうか。

??(26a) documentos pre  $\Phi$  y postconciliares



これも後方照応となるため、「省略」と解釈するには無理があり、次の各々の例のように、接辞等位と考える方が妥当であろうと考える。

(27) documentos [pre y post] conciliares

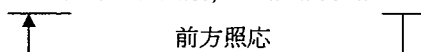
(28) [macro y micro] fotografías

(29) [intra y extra] muros

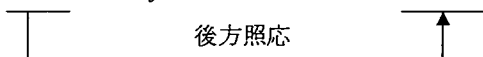
(30) [rápida y correctal] mente

一方、Bally, の定義する後方照応での「省略」も可能という説はどうなるのだろうか。次の文のように一般的には前置詞を伴う場合は後方照応も可能である。

(31) De todas las chicas de la clase, María es la  $\Phi$  de mayor edad.

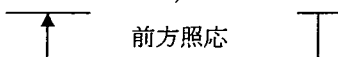


(31a) María es la  $\Phi$  de mayor edad de todas las chicas de la clase.

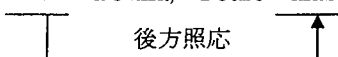


しかし、次の場合はどうであろうか。これらは「省略」の要素の核が主節にないため、後方照応では非文となる。

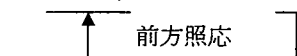
(32) Si Antonio alaba a Julia, Pedro  $\Phi$  a María.



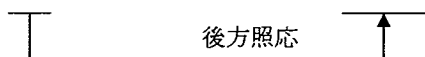
(32a) \*Si Antonio  $\Phi$  a Julia, Pedro alaba a María.



(33) Si Antonio canta, Pedro  $\Phi$  también.



(33a) \*Pedro  $\Phi$  también si Antonio canta.



### 2. 1. 3. 再生の曖昧性

例文 (34) では省略された要素を正確に復元できるが、(34b) ではその要素は両方の可能性があり、再生は曖昧なものとなる。

(34) El hijo de Antonio acaba de salir y el  $\Phi$  de Pedro está allí.  $\Phi$  = hijo

(34a) El hijo de Antonio y el amigo de José acaban de salir y el  $\Phi$  de Pedro está allí.  $\Phi$  = hijo? / amigo?

### 2. 2. 非同一体系

このタイプの等位接続は、(35) と (36) の例文でもわかるように、第二連結部には第一連結部の要素と機能的に同一な要素が含まれていない。

(35) [ Mentira y podrida ], buñolera. (G. Pavón, *Las Hermanas Coloradas*, p.15)

(36) Hay que [ casarlos y pronto ]. (Cela, *La Colmena*, p. 136)

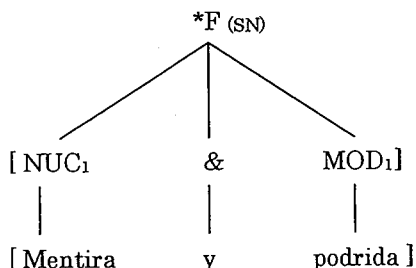
(37) Llegó [ Petra y buena. ]. (G.R.A.E., 3.2.5.)

つまり等位接続はされているものの、表面的には等位接続の条件である「機能的同一性」を欠いており、<sup>13</sup> 見たところ非文とも思える。そこで、類似した例文が他にもあるか探してみたが、た

しかに同様の文は次のように随所に存在する。

- (38) Pues me iré y ahora mismo. (Mihura, *A media luz los tres*, p.42)  
(39) Anda y con dos chicos. (Azorín, *La voluntad*, p.236)  
(40) ... rezo poco y en público, murmuro mucho y en secreto. (Cervantes, *Coloquio*, p.297)  
(41) Lo golfo golfo es otra cosa y bien distinta. (Sánchez, *El jarma*, p.252.)

これらも本来は 接続詞を用いない形が正しい構文となるが、<sup>14</sup> 一種の強調の意がこめられているため、(35)～(37) のような形をとるに至ったと言えるだろう。この場合、次のように NUC である *mentira* と *me iré* は MOD の *podrida* と *ahora mismo* をそれぞれ連結している。



しかし、このような構文を Franchini, Serra, Kovacci はそれぞれ 次のように解釈している。

<sup>15</sup>

- (35') [Mentira y (mentira) podrida ], buñolera.  
(36') Hay que [casarlos y (casarlos) pronto ].  
(37') Llegó [Petra y (llegó) buena ].

つまり3氏はこの形の中に「省略」が存在することを示唆している。しかし、その根拠については明確には示していない。また、Serra は上述のような解釈をしながら、(36)を次の例文と同じ構文として取り扱っている。<sup>16</sup>

- (42) Aparecía su nombre y el  $\Phi$  de sus tres hijos.  
(43) Acuden al sagrado culto por una parte y por otra  $\Phi$ .

前述の(36)は(42)と(43)の「省略」とは明らかに異なるはずであり、両者が同じ項目で扱っていることに疑問をいだく。この点に関してはさらなる検討が必要であろう。

### 3. おわりに

本稿では、広く見られる「省略」の用法の体系を整理し、若干の問題点を指摘してみた。「省略」の現象はどこにでも見られる日常的なものから、複雑な様相を呈するものまですべてを含めると



膨大なものになる。ここで記したものは、全体から見るとごく一部であるが、輪郭をつかむ手がかりになれば幸いである。先行研究をさらに精査し、当該テーマに関する概念の規定や解釈について今後も考察を続けていきたい。

- 1 本稿は2003年5月25日、東北大学で開催された日本ロマンス語学会第41回大会における口頭発表をもとに執筆したものである。なお、内容の一部に割愛、加筆、修正を施した。
- 2 Sánchez de las Brozas, 1978 [1587], p.317.
- 3 92年度版までは、¿Qué tal? は¿Qué tal te parece? の「省略」とする説明がなされていた。¿Qué tal? は ¿Qué tal estás? あるいは ¿Qué tal te encuentras? の「省略」とみなすのが一般的なため、この解釈はかなり不自然な面があることも否めないが、2001年度版にはこの例文は削除され Juan ha leído el mismo libro que Pedro. (ha leído)、という「省略」が半ば義務化されている例文が使用されている。
- 4 Real Academia Española, 1771-1931.
- 5 Real Academia Española, 1973, p.351.
- 6 Real Academia Española, 1992, s.v.
- 7 Moliner, 1998, II, s.v., Casares, 1979, s.v.
- 8 この辞書では、buena は bueno の女性形としてだけでなく、buena という見出し語を掲載しており、何かをほのめかしたり、注釈を加えるときの、一種の省略的表現と説明している。
- 9 これこそが唯一「省略」の名に値すると述べている研究者もいる。Kovacci 1975, p.133.
- 10 Fernández は"Femeninos sin referencia"という項目においてこれらの代名詞による置換を取り扱っている。また、わずかではあるが男性形が用いられる場合についても言及し、性の両用があることも指摘している。Fernández, 1986, págs. 165-167.
11. Barrenechea, 1974, Duhaneau, 1982, Gutiérrez, 1978, Kovacci, 1972.
- 12 Bally, 1965. p. 159.
- 13 Dik, 1968, Franchini, 1986.
- 14 Barrenechea と Kovacci も接続詞のない形の正当性を言及している。Barrenechea, 1974, p. 112, Kovacci, 1975, p. 138.
- 15 Franchini, 1986, p.392, Serra, 1984, p.93, Kovacci, p. 138.
- 16 (42)と(43)の例文は、論文からそのまま引用したものである。Serra, 1984, p.93.

#### 参考文献

- Bally, Ch. (1965): *Linguistique generale et linguistique francias*, Berne, Francke.
- Barrenechea, A.M. (1974): "A propósito de la elipsis en la coordinación" en *Studia Hispanica in Honorem R. Lapesa*, II: págs. 105-121.
- Bosque, I. y Violeta, D. dirs., Real Academia Española (1999): *Gramática descriptiva de la lengua española*, 3 vols. Madrid, Espasa-Calpe.
- Brucart, J.M. (1984): *La elisión sintáctica en español*, Bellaterra, Universidad Autònoma de Barcelona.
- Casares, J. (1979): *Diccionario ideológico de la lengua española*, Barcelona, Gili.
- Diccionario Básico Espasa*, (1980): 5ª ed., 17 vols., Madrid, Espasa-Calpe.

- Dik. Simon. C. (1968): *Coordination: Its implications for the theory of general linguistics*, Amsterdam, North-Holland Publishing Company.
- Duhaneau, C. (1982): "Algunas observaciones sobre la elipsis del verbo en la obra de Azorín", en *Actas del Cuarto Congreso Internacional de Hispanistas*, Salamanca, págs. 405-408.
- Fernández Ramírez, S. (1986): *Gramática española: Los sonidos, el nombre y el pronombre*, Madrid, Manual de la revista de Occidente.
- Franchini, E. (1987): *Las condiciones gramaticales de la coordinación copulativa en español*, Bern, Francke.
- García de Diego, V. (1970): *Gramática Histórica Española*, Madrid, Gredos, 1970.
- Gutiérrez Araus, M.L. (1978): *Estructura sintáctica del español actual*, Madrid, S.G.E.L.
- Kovacci, O. (1972): "Función y contexto: acerca de la elipsis", en *Estudios de gramática española*, Buenos Aires, Edicial, págs. 103-119.
- Lázaro Carreter, F. (1981): *Diccionario de términos filológicos*, Madrid, Gredos.
- Miki, I. (1991): "Las condiciones sintáctica de la coordinación copulativa en español", en *Academic Bulletin*, 36, Kyoto University of Foreign Studies. págs. 395-410.
- Moliner, M. (1998): *Diccionario de uso del español*, I, II, Madrid, Gredos.
- Real Academia Española (1992, 2001): *Diccionario de la lengua española*, Espasa-Calpe.
- ..... (1771- 1917): *Gramática de la lengua castellana*.
- ..... (1931): *Gramática de la lengua española*, Espasa-Calpe.
- ..... (1973): *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*, Espasa-Calpe.
- Sánchez de las Brozas, F. (1976) [1587]: *Minerva o De la propiedad de la lengua latina*, Madrid, Cátedra.
- Serra Alegre, E.N.(1984): "Requisitos para la coordinación copulativa con "Y" ", en *Quadernos de Filología*, 2, Valencia, 1984, págs. 301- 305.
- 拙稿 (1991): 「連結等位接続における語句の省略について」, 『イスペニカ』, 35, págs. 65-83.